

# 伊賀市における美術博物館整備の検討について

2023年2月

伊賀市企画振興部文化振興課

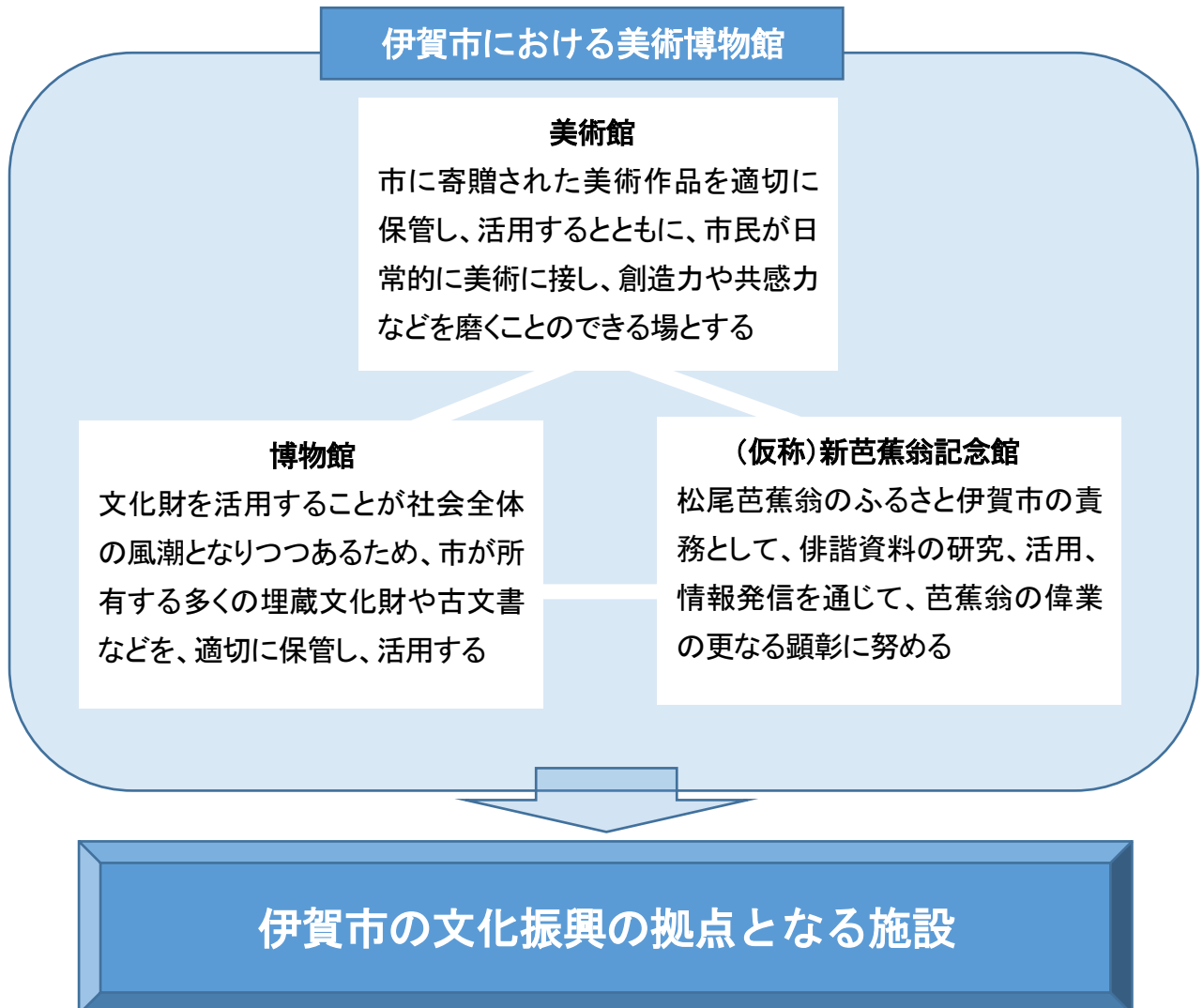
## 1. 伊賀市における美術博物館のイメージ

2019（令和元）年度に策定しました「伊賀市文化振興ビジョン」では、基本方針として「誰もが文化芸術に触れ合える機会の創出」や、「施設の整備・有効活用により文化芸術環境を整える」ことを掲げ、これにより基本的人権である「文化権の保障」につなげようと考えています。

美術館には、美術作品やそれに関わる資料・情報を集め、保存・研究し、公開しながら、未来の世代に伝えていくとともに、展示や教育普及活動などを通じて、地域や市民との交流により文化創造の拠点となるという役割があります。

市の文化財も含め、市民が文化芸術に触れる機会を創出し、文化振興を進めていく拠点となる美術博物館を建設するための準備を始めることとします。

そして、芭蕉翁顕彰のさらなる推進を図るため、懸案となっています新しい芭蕉翁記念館の機能もあわせて、これまでの検討も参考にしながら具体化していくこととします。



☆ホンモノに触れ、5感で感じることで、感性や心の豊かさを育む

## 2. それぞれの施設整備検討の必要性

### (1) 美術館

伊賀市は、世界的に活躍された画家 故元永定正氏や、書家 故榊莫山氏をはじめ、様々な分野で秀でた作家を輩出してきました。

市内には数多くの美術家や愛好家がグループやサークルを作り制作活動を行っていますが、広く市民一人ひとりが日常的に美術に接し、創造力や共感力など、新しい感覚を磨くことのできる場は必要です。

美術館の建設に関する民意が示され、令和2年度には美術作品専用の展示施設であるミュージアム青山讃頌舎を開館しましたが、美術館については、いまだ実現には至っていません。

2006（平成18）年

○美術館建設を推進する会が、約9,200人の市民の署名を添えて、市へ美術館建設を求める陳情書を提出。

○6月議会において、市議会に美術館建設を求める請願が提出され、採択された。

2014（平成26）年

○美術館建設を求める会が、市へ美術館建設を求める要望書を提出。

あわせて、市では多くの美術作品の寄贈を受けていますが、それらを適切に保管・研究し、広く市民に公開する等活用するまでは至っていません。

### (2) (仮称) 新芭蕉翁記念館

芭蕉翁記念館は1959（昭和34）年に建設されてから半世紀以上が経過し、施設の老朽化のほか、資料保存、展示機能などの諸課題が表面化してきています。

このことから、新しい芭蕉翁記念館について、過去より幾度かにわたり建設の議論が行われてきました。

1994（平成6）年 新記念館建設の議論が開始

2008（平成20）年 新記念館の基本構想策定

2009（平成21）年 基本計画策定

伊賀市の文化創造拠点や市域活性化拠点として位置づけ、立地場所を「市立桃青中学校跡地」とした。

2013（平成25）年 改めて検討を開始

上野図書館の建物を活用し整備する事業計画を策定

※同時期に庁舎移転や旧上野市庁舎、上野図書館の整備計画が議論されていたことから、それらの検討結果を待つこととなり、現在に至る。

### (3) 博物館

市では、市内外の方々から寄贈・寄託を受けた古文書や絵画などのほか、城之越遺跡や伊賀国庁跡など市内の遺跡の発掘調査で出土した埋蔵文化財を多数所蔵しています。

これらの文化財の実物を見ることができる機会を提供することにより、伊賀市の歴史や文化の魅力を発信し、シビックプライドの醸成や交流人口の増加につながるものと考えます。

また、こうした文化財を調査し展示する施設は、県内の多くの市では設置されており、文化財を活用することが社会全体の風潮となりつつあることから、博物館の整備も必要となっています。

### 3. 検討の進め方

伊賀市の文化振興の拠点となる美術博物館の建設に関し、専門的な見地などから検討を行うため、学識経験者や有識者、市民で構成する委員会を設置し、施設設備の内容や規模、設置場所、整備手法、スケジュールなどを検討することとします。